

つたやしのミニネットワーク

ミニネツ
No.46

日直の新しい形を考えよう

日直の仕事は「クラスの一人として役割を担うことで、責任感や主体性を育てる」という考えに基づいています。しかし「クラスの仕事はみんなで交代にやらねばならない」というように、義務感で仕方なく仕事をする子どもも多いのではないのでしょうか。

これではいきいきとクラスの仕事をする子どもは育ちません。そこで、次のようになります。

- ① 従来日直の仕事であったものを書き出す。
- ② それらをやりたい人たちを募る。何人いてもよい。誰もいなければ教師がやる。
- ③ 毎日1週間ほど、それぞれの担当に名乗りをあげた人たちが仕事をしてもらっているか、確認する。
- ④ 1か月続けることができたら人たちに、その仕事を1年間任せる。

仕事を任せるときには、たとえば「教室の電気スイッチを操作する仕事」なら「電源装置管理士」などの称号を与え、クラス全員で称賛します。みんなでほめた後、教師は「クラスのために自分の時間と労力をなげうつことのできる人にこそ、その仕事をする資格があるのです」と、再度の賛辞を贈ります。

それぞれに栄えある称号を授かった子どもたちは、きつとプライドを持って、自主的に仕事を遂行してくれるようになるでしょう。

